

相東小で避難所開設訓練を実施

地域関係団体が連携して避難所を開設・運営する体制の構築を目指して、相武台東小学校で初めての避難所開設訓練を1月28日に実施しました。

当日は、朝9時に震度6弱の地震が発生したという想定で、参加した自治会員の皆さまには「いっとき集合場所」に集合後、「いっとき避難場所」に移動し、防災委員の先導に従って避難所を開設す



備蓄倉庫から資材を取り出します



シートに座って実際に避難場所を体験

る相東小へと避難行動をとっていただきました。

一方、自治会役員、相東小教員、座間市危機管理課員などから構成される避難所開設運営委員は、防災備蓄倉庫から必要資材を搬出し、避難所を設営する体育館の安全を確認し、床面を清掃したのち、予定された場所にブルーシートとクッションシートを敷いて避難者が一時的に休めるスペースを確保しました。受け入れ準備が完了したことを確認して避難者役の会員の方々に入ってください、一人あたりのスペースな

どを実際に体験していただきました。この日は、雪が舞うほどの寒さで、体育館の中は防災用の暖房ヒーターをつけていても寒さが身に染みて、3月11日の東日本大震災の際も寒くて、避難された方々はさぞかし大変だっただろうと思われました。

そのほか、防災用の地下タンクから飲料水を手押しポンプでくみ出す体験をし、簡易トイレの組立方法などを聞いて、最後に炊きだした防災食を受け取り、悪天候のため予定より少し早く切り上げて訓練を終わりました。



手押しポンプで緊急飲料水の汲み上げ

わが町 相武台を綴る -座間市制三十年を記念して-

連載第2回 (片野晴雄さんが平成13年に著した冊子から抜粋して連載しています)

座間村の歴史と相武台

郷土座間の歴史をみると、座間の語源や起源は別に譲るとして、幕末までの座間は天領・旗本領そして・藩領に分割支配された相模川流域の一寒村でした。

明治のはじめ廃藩置県令や地租改正令等の諸政策が断行され、明治二十二年六月、市町村令により座間村初代村長に赴任されたのが片野要助氏でした。

(座間村長、町長、市長一覧は、別の機会に掲載します)

大正以後の座間村をみると、大きくは座間、入谷、新田・四ツ谷、栗原に分けられた。さらに、座間は上宿・中宿・下宿・河原宿・中河原そして中っ原の部落、入谷は鈴鹿・長宿・星の谷・皆原(天台)の部落、栗原は小池・上栗原・中(栗)原・下栗原・大塚・芹沢・小松原の部落でした。

座間村は、昭和十二年十二月陸軍士官学校の移転を機会に町制を施行、昭和十六年四月には座間町は相模原地域の一町六か村と合併して相模原町となりました。そして、昭和二十三年九月には相模原町から分離、さらに昭和四十六年に市制をしいた。